**情報システム利用技術に関する研究**

**建築分野における情報システムの応用技術**

**A Study on Computer Technology Symposium**

**Application of information systems to architectural design and engineering**

○構造　一郎\*1，環境　二郎\*1，計画　三郎\*2

Ichiro KOUZOU\*1, Jirou KANKYOU\*1 and Saburou KEIKAKU\*2

\*1 建築大学建築学科　教授　工博

Professor, Department of Architecture, University of Kenchiku, Ph.D.

\*2情報株式会社設計部　部長　博士(工学)

Manager, Design Department, Joho Corporation, Ph.D.

**Summary**: For long papers in Japanese, the summary should be written either in English. The maximum length of the summary is 200 words in English.

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○.

**キーワード:** 建築; 構造; 環境; 計画; 情報

**Keywords:** Architecture; structure; environment; planning; information.

**1. はじめに**

「論文」は6ページで構成する。

上下の余白は25mm，左右の余白は20mm。和文は明朝体，英文はローマン体を用いる。

タイトル，著者名，職位等，要旨，キーワードは１段組で，本文は2段組で記す。

**2. 題目・著者名・所属等・英文要旨・キーワードについて**

2.1.題目

題目は日本語，英語の順で，14ポイント，ボールド，中央揃え（副題は10.5ポイント）。英語題目主題はheadline capitalization，英語副題はsentence capitalizationとする。Headline capitalizationはAssociated Press styleとするが、このサイト（<https://headlinecapitalization.com/>）などで確認できる。

* **Headline capitalization:** Symposium on Computer Technology of Information, Systems, and Application
* **Sentence capitalization:** Symposium on computer technology of information, systems, and application

2.2. 著者名

著者名は日本語，英語の順に9～10ポイントの中央揃えで，日本語の発表者名に○印を付ける。\*(合い印)は半角\*を上付きにする。英語著者名はheadline capitalizationとする。

2.3. 所属等

所属・職位・学位は日本語，英語の順に9～10ポイント，左揃えで記す。日本語の所属等には半角の\*と著者名に対応した番号を付ける。英語の所属等はheadline capitalizationとする。

2.4 英文要旨

要旨は，本文が日本語の場合は9～10ポイントの英語で200words以内で記述する。

2.5. キーワード

キーワードは日本語，英語の順で，最大6つまでを9～10ポイントで中央揃え，それぞれをセミコロンで区切る。英語のキーワードはsentence capitalizationとし，ピリオドで終わる。

題目と著者名の間，著者名と職位等の間，職位等と概要の間および概要とキーワードの間は1行あける。

**3. 本文**

キーワードの下に2行あけて本文を記す。本文は2段組で，1段の幅は82mm，段組の間は6mmとし，1段にはなるべく25字×48行（文字の大きさ9ポイント相当）入るように設定する。寸法内であれば，文字数で1文字，行数で1行程度の差があってもよい。1ページ目については，題目等が入るので本文の行数は各自調整すること。本文の各段落の頭は，必ず字下げ（1文字）する。

**4. 図表について**

4.1. 図について

　本文と図の間は１行空け，図は中央揃えにする。図幅は段の幅82mm以内または2段分の170mm以内。図の次行には図番および図題を設け，図番および図題の下は１行空ける(図1)。

図1　図題は図の下に

4.2. 表について

本文との間に１行空け，表の前行に表番および表題を設ける。表の幅は，段の幅82㎜以内または2段分の170mm以内とし，表の下は１行空ける（表1）。

表1　表題は表の上に

|  |  |
| --- | --- |
| Please use Times New Roman font with a size of 8 points | Please use Times New Roman font with a size of 8 points |
|  |  |

**5. 参考文献**

6ページ目の最後には，区切り罫線の後に参考文献を8ポイント，行間11ポイントで記す。参考文献は本文中で必ず参照1)2)3)すること。Chat GPT等大規模言語モデル（LLM）使用による文章掲載の場合は、“引用”4)として明記すること。

１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０１２３４５２

３

４

５

６

７

８

９

０

１

２

３

４

５

６

７

８

９

０

１

２

３

４

５

６

７

８

９

０

１

２

３

４

５

６

７

８

９

０

１

２

３

４

５

６

７

８

１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０１２３４５２

３

４

５

６

７

８

９

０

１

２

３

４

５

６

７

８

９

０

１

２

３

４

５

６

７

８

９

０

１

２

３

４

５

６

|  |
| --- |
|  |
|  |

**［参考文献］**

1. Alias Abdullah、位寄和久、両角光男：AHPを用いたGISによるレクリエーション土地利用計画: 阿蘇地域における土地利用計画に関する研究、日本建築学会計画系論文集、59巻、463号、pp.213-222、1994、DOI: <https://doi.org/10.3130/aija.59.213_2>
2. 佐藤俊作、福島泰明、薮内彰夫：原子力発電所の構造設計における詳細解析例とその問題点、日本建築学会・情報システム技術委員会第12回情報・システム・利用・技術シンポジウム、pp.7-12、1989
3. 日本建築学会編：建築・都市・環境デザインのためのモデリングと最適化技術、日本建築学会、2015
4. Chat GPT：質問内容（アクセス日：2023.5.10）